

玉井 健 (Ken TAMAI)

履歴・研究業績



1. 履歴

学歴

昭和 47 年 4 月 香川大学経済学部経営学科入学

昭和 50 年 9 月 San Jose State University 留学 (岡山市サンホゼ市姉妹都市交換留学生 昭和 51 年 6 月まで)

昭和 52 年 3 月 香川大学経済学部経営学科卒業

平成 2 年 6 月 SIT (The School for International Training) 大学院英語教育学修士課程入学

平成 5 年 2 月 SIT (The School for International Training) 大学院英語教育学修士課程修了, 教育学修士 (Master of Arts in Teaching)

平成 11 年 4 月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程入学

平成 14 年 3 月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程修了 博士 (学術)

職歴

昭和 53 年 4 月 神戸市立兵庫商業高等学校教諭 (英語科) (昭和 56 年 3 月 31 日まで)

昭和 56 年 4 月 神戸市立葺合高等学校教諭 (英語科) (平成 5 年 3 月 31 日まで)

- 平成 5 年 4 月 四国学院大学文学部助教授 (平成 7 年 3 月 31 日まで)
- 平成 7 年 4 月 神戸松蔭女子学院短期大学英文学科助教授 (平成 14 年 3 月 31 日まで)
- 平成 14 年 4 月 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科助教授 (平成 15 年 3 月 31 日まで)
- 平成 15 年 4 月 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科教授
- 平成 15 年 8 月 大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において神戸市外国語大学大学院外国学研究科英語教育学専攻(修士課程)専任教授「英語教育指導分析」可、「英語教育学特別研究」MO 合の資格ありと判定
- 平成 16 年 4 月 神戸市外国語大学大学院外国学研究科英語教育学専攻(修士課程)教授 担当授業科目:「英語教育指導分析」「英語教育学特別研究」
- 平成 22 年 4 月 在外研修 マサチューセッツ州立大学アマーフト校 (平成 23 年 3 月まで)
- 平成 24 年 4 月 神戸市外国語大学国際交流センター長 (平成 29 年 3 月まで)
- 平成 29 年 4 月 神戸市外国語大学国際関係学科学科代表 (平成 30 年 3 月退任)
- 平成 31 年 3 月 神戸市外国語大学外国語学部 定年退職

2. 主な業績

著書

- 2005 『リスニング指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究』単著, 風間書房 (平成 16 年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(課題番号: 165144)による学位論文の出版).
- 2008 『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』(小寺茂明・吉田晴世編著, 金谷 憲, 日野信行, 斉藤弘子, 白畑知彦, 竹内 理, 本田勝久, 投野由紀夫, 静 哲人, 大田 洋, 久埜百合との共著), 第 8 章「シャドーイングと外国語学習」執筆, 松柏社.
- 2009 『リフレクティブな英語教育をめざして』(吉田達弘, 今井裕之, 横溝紳一郎, 柳瀬陽介との共編著), 第 4 章「リフレクティブ・プラクティス—教師の教師による教師のための授業研究」執筆, ひつじ書房.
- 2009 *Researching Language Teaching and Learning* (Tatsuhiko Yoshida, Hiroyuki Imai, Yoshiyuki Nakata, Osamu Takeuchi, Akira Tajino との共編

著), “Confucianism as cultural constraint and its effect on Japanese self-expressiveness”執筆, Peter Lang.

- 2016 *Current Issues and New Thoughts on Reflective Practice* (Ian Nakamura, Jo Trelfa との共編著), Preface 及び第 2 章 “Use of epistemological lenses on the ambiguity of reflective practice: What is it to reflect on experience?” 執筆, 『神戸市外国語大学研究年報』53 号.
- 2019 『リフレクティブ・プラクティス入門』(渡辺敦子, 浅岡千利世との共編著), 第 1 章「リフレクションと授業実践研究」第 2 章「リフレクションについて」を執筆, 第 3 章「実践としてのリフレクティブ・プラクティス」及び第 6 章「リフレクションと教師の成長」を部分執筆, ひつじ書房.

作成教材

- 2004 『決定版シャドーイング』(門田修平との共著), コスモピア(2017 年改訂).
- 2005 『決定版シャドーイング入門編』単著, コスモピア(2017 年改訂).
- 2008 『決定版シャドーイング超入門編』単著, コスモピア.
- 2012 『英語シャドーイング練習帳』(中西のりことの共著), コスモピア.

論文

- 1992 「フォローアップの聴解力向上に及ぼす効果及びフォローアップ能力と聴解力の関係」『STEP BULLETIN』日本英語検定協会研究助成論文集, 第 4 巻.
- 1993 「談話的視点によるパラグラフィティングの効果的な指導—「時制の軸」を定める試み」『紀要』第 22 号, 中部地区英語教育学会.
- 1993 “Integration of Four Skills Using Debate — Theory and Approach”, *ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan)*, vol.4.
- 2002 “Confucianism as Cultural Constraint: A Comparison of Confucian Values of Japanese and Korean University Students”, *Japanese Education in Transition, International Education Journal, Special Congress Issue*, vol.3, 5.
- 2003 「リスニングとシャドーイングの接点に見る新たな指導の視点」『関西英語教育学会紀要』Vol.26.
- 2008 「教師自身のための教師による授業研究」『教師の成長に寄与する外国語授業研究法の開発と重層的データベースの構築』平成 17-19 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)研究成果報告書(課題番号:17520390)
- 2019 「英語教育における授業実践をどうとらえるか: 人間科学的視点のもたらず方法論的ヒント」関西英語教育学会『KELES JOURNAL』招待論文.

雑誌寄稿論文

- 1993 「語用論と英作文指導」『現代英語教育』5月号, 研究社.
- 1993 「プロセス・ライティングー学習者中心の英作文指導法」『現代英語教育』8月号, 研究社.
- 1995 「外国語教育におけるヒューマニズムと学習者としての教師観」『現代英語教育』8月号, 研究社.
- 1996 「内省による授業研究」『現代英語教育』4月号, 研究社.
- 1998 「文脈という礎で考える英文法」4月号『現代英語教育』研究社.
- 2007 「シャドーイングと語彙学習の接点」2月号『英語教育』大修館.
- 2010 「リフレクティブ・プラクティスと教師の成長」『英語教育』3月号 大修館.
- 2014 「授業改善のためのリフレクション術: フィードバックを使ったリフレクション」『英語教育』2月号 大修館.

口頭発表

- 2010 “Steps in a new direction: an evaluation of the try-out of a performance—based assessment for teachers”, with Kirsten Helmer, Critical Questions in Education Conference in Chicago.
- 2011 “Impact of Systemic Functional perspectives as a means to capture growing reflective literacy: Analysis of a novice teacher’s teaching journal”, BAAL (British Association of Applied Linguistics) at The University of the West of England, (Recipient of the Best Presentation Award).
- 2014 “Dimensions in the analysis of reflective journal data: Temporality, intersubjectivity and care” KCUFS Reflective Practice conference, at KCUFS.
- 2014 “Exploring Reflective Practice through interactions between teachers and students through spoken and written discourse analyses: Benefits and challenges of applying conversation analysis to interviews and a systemic functional analysis to journaling”, with Ian Nakamura, EELC5 (Explorations in Ethnography, Language and Communication 5) at The University of Manchester.
- 2016 “Use of epistemological lenses on the ambiguity of reflective practice”, 35th International Human Science Research Conference at University of Ottawa.
- 2018 “Critical moments when Japanese English teachers come to listen to the unvoiced voices of learners: phenomenological description of the

teacher's learning process to know how their teaching is experienced by the learner”, 37th International Human Science Research Conference.

招待講演

- 2014 「解題リフレクティブ・プラクティス：実践者による実践者のためのリサーチ、その理論と方法、わかりにくさの背景」関西英語教育学会第 32 回 KELES セミナー，神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ.
- 2017 “My journey with reflection as a means of teaching and researching: The process of shift along with experiential learning, reflective practice and phenomenology”, JALT Teacher Journeys Conference at Konan University.
- 2018 “Reflective practice: its evolving concepts to capture the “real” of teaching”, Professional Development through Reflection on Teacher Cognition at International Cristian University.
- 2019 「英語教育における授業実践をどうとらえるか：人間科学的視点のもたらず方法論的ヒント」関西英語教育学会卒論・修論セミナー，関西国際大学.